<巻頭言>

医療・福祉・介護分野との連携に基づく歯科口腔保健活動

福田英輝

統括研究官（歯科口腔保健研究分野）

Oral health activities in collaboration with medical, welfare, and nursing care fields

FUKUDA Hideki

Research Managing Director, National Institute of Public Health

高齢化の急速な進展にともない各地域では、それぞれの特性に応じて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで実現できるよう地域包括ケアシステムの構築が進められている。ここでは地域住民を取り巻くさまざまな分野の支援が一体となって提供されることが求められている。地域における歯科口腔保健活動についても、歯科口腔保健分野に限定した対応にとどまらず、医療・福祉・介護分野などと幅広く連携した活動が期待されている。

健康日本21あるいは歯科口腔保健の推進に関する基本的事項に関連する指標、とくに乳幼児期から学齢期におけるう蝕に関する指標は、地域や学校でのフッ化物応用といったう蝕対策の効果もあり、順調な改善が示されている。その一方、成人期における歯周疾患対策、あるいは定期歯科健診や歯科医療サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健対策は、関連指標の推移から推測すると、大きな改善につながっていないことが伺える。地域や職域を基盤とした歯周疾患予防対策、あるいは各種歯科保健対策の狭間に取り残された人々への歯科口腔保健対策が十分に示されていないなか、改めて医療・福祉・介護分野と連携した歯科口腔保健活動を検討する意義は大きいと考えられる。

本特集号では、「医療・福祉・介護分野との連携に基づく歯科口腔保健活動」と題して保健行政機関、歯科医師会、病院歯科などの立場から、他分野と連携した歯科口腔保健活動の実践例と、その課題や将来への可能性を論じていただいた。まずは歯科医師の資格を有する保健所長の立場から地域を俯瞰し、歯科と地域住民のあらゆる生活部面とは密接に関連していることを概説いただいた。つぎに、歯科診療所におけるたばこ対策がいかに理にかなった活動であるかを解説いただくとともに、歯周疾患の罹患のリスク要因である喫煙は、糖尿病や循環器疾患などの非感染性疾患のリスク要因でもあることから、他分野と協働して行う喫煙対策が効果的であり、その手法としてのコモンリスクアプローチをご紹介いただいた。コモンリスクアプローチは、埼玉県歯科医師会が展開する歯科診療所における生活習慣病予防対策にも応用されており、歯科診療所での実践例を紹介いただいた。さらに地域の歯科診療所は、病院歯科と協働することで、手術の成否を担う重要な役割を有していることを周術期口腔機能管理を例に解説いただいた。最後に、歯科保健対策の狭間に取り残されがちな後期高齢者、要介護者、あるいは障害者に対する歯科口腔保健活動についてご議論いただいた。

本特集号で取り上げた地方自治体、歯科医師会、病院歯科での実践例、あるいは各種歯科保健事業にかかわる検討・議論を参考にいただき、地域における医療・福祉・介護分野との連携に基づく歯科口腔保健活動が効果的に企画・提供されることを期待したい。